



全日本女子ヨットマッチレース選手権/クィーンズマッチ・イン・日産東海 2008

All Japan Women's Match Race Championship / Queen's Match Race 2008

2008年10月11 - 12日

11-12 Oct., 2008

ISAF EVENT GRADING 4

SAILING INSTRUCTIONS (Ver. 1.0)

略語

PC - プロテスト・コミッティ

OA - オーガナイズিং・オーソリティ (主催団体)

RRS - セーリング競技規則

RC - レース・コミッティ

NA - ナショナル・オーソリティ

SI - 帆走指示書

NoR - レース公示

1. ルール

1.1 本大会には以下のものを適用する。

(a) RRS に規定されたルール。付則 C を含む。

(b) ハンドリング・ボーツ (SI のアペンディックス C)。これは練習中にも適用される。クラスルールは適用しない。

(c) 各国協会規定は適用しない。

NoR と矛盾が生じた場合、本帆走指示書が優先する。

1.2 削除

1.3 削除

1.4 RRS C8.6 として以下を追加する。『そのマッチのアンパイアと他のアンパイアの最低 1 名が、艇が RRS 14 に違反して損傷したと判定した場合、審問なしで 0.5 点のペナルティを課することができる。このペナルティを課せられた競技者は、可能な限りできるだけ早くそのことを通知され、また審問を要求することができる。そのとき PC は RRS C6.6 に従って進める。その場合には、PC により決定されるペナルティは 0.5 点を超えることがある。アンパイアは、0.5 点を超えるペナルティが適切であろうと判断した場合、RRS C8.4 に従って処理しなければならない。このペナルティはラウンドロビン・ステージでは違反者の減点、ノックアウト・ステージでは違反者の相手方への加点として扱う。』

1.5 削除

1.6 RRS C11.3(a)の最後の文章を以下のものと置き換える。「RC がセイルオフを実施できないと判断した場合、以下のようにしてタイを解く。タイとなった競技者間で、第 1 レースを除外した場合のラウンドロビンの得点で順位を決める。これでタイが解けない場合は第 2 レースも除外したラウンドロビンの得点順位を決める。以下、順にタイが解けるまでこれを繰り返す。」

1.7 RRS C11.1 の最初の文章を以下のように変更する。「ラウンドロビン・シリーズとは、すべての競技者が互いに 1 回以上帆走することが予定されている競技者のグループ分けをいう。」

1.8 RRS C3.1 のスタート信号の表を以下に変更する。

時刻(分)	視覚信号	音響信号	意味
6 分前	F 旗掲揚	1 声	注意信号
5 分前	F 旗降下および数字旗掲揚*	1 声	予告信号
4 分前	P 旗掲揚	1 声	準備信号
2 分前	青色旗もしくは黄色旗または両方の旗の掲揚**	1 声	スタート前のエントリータイムの終了
0 分	予告信号と準備信号降下	1 声	スタート信号

注意 :*, **印の注記は RRS の通りである。

1.9 リタイア

スキッパーが RC にリタイアを通告し、レース海面に来ないかレース海面を離れたことが明らかな場合、RC はアンパイアと協議の

Co-operated by; Aichi-ken Sailing Federation

<p>上、そのスキッパーの得点を0点、対戦相手の得点を1点として、ペアリング・リストを変更することができる。本頁はRRS C8.5を変更している。</p>
<p>2. 参加と参加資格</p> <p>2.1 OA により招待されたスキッパーのみが、大会に参加する資格がある。招待の基準はレース公示の通りである。参加を認められたスキッパーはSI アベンディックス A に示される。</p> <p>2.2 参加資格を持続するためにスキッパーは、指定された日までに参加料6万円とダメージ・デポジット2万円の支払を完了し、以下の期間中に乗員の登録と計量を完了させなければならない。ただし、OA が変更した場合を除く。</p> <p>計量 / 10月11日 08:10 から 12:00。なお、10月11日 09:00 までに事前申告のあった交代クルーに限り、10月12日 07:00 から 07:20 の間にも計量できる。 乗員登録 / 計量と同じ時間帯。</p> <p>2.3 ダメージ・デポジットは、それぞれの事故に対するそれぞれのスキッパーの責任限度額ではない。大会期間中にダメージ・デポジットから差し引きが行われた場合、スキッパーは、参加資格を維持するためにダメージ・デポジットの額を元の金額に戻すことを求められることがある。</p> <p>2.4 各スキッパーは乗艇したボートのダメージや損失について責任がある。ただし、OA によって別に責任分担が割り当てられた場合はそれに従う。(18 項参照)</p> <p>2.5 マッチの予告信号後、登録されたスキッパーは、緊急の場合を除き、レース中は舵を離してはならない。</p> <p>2.6 登録されたスキッパーが大会を継続できなくなった場合、OA はオリジナル・クルーメンバーを代理として認可することができる。</p> <p>2.7 登録されたクルーメンバーが大会を継続することができなくなった場合、OA は交代クルー、一時的な交代、またはその他の調整を認可することができる。</p>
<p>3. 競技者との連絡</p> <p>3.1 競技者への通告は、レース本部付近に設置された公式掲示板に掲示される。</p> <p>3.2 陸上で発する信号は、音響信号 3 声とともにレース本部付近に掲示される。</p> <p>3.3 スキッパーは、OA によって許された場合を除き、10月11日 12:00 から行われる最初のブリーフィングに参加しなければならない。以後行われるブリーフィングは NoR の予定のとおりである。</p> <p>3.4 アンパイアとの最初のミーティングは、最初のブリーフィングに引き続いて行われる。</p> <p>3.5 削除</p>
<p>4. 帆走指示書の変更</p> <p>4.1 陸上で行われるSIの変更は、影響を及ぼすレースの最低 60 分前に掲示され、RC とPC の代表者により署名される。</p> <p>4.2 削除</p> <p>4.3 海上で変更が行われたときは、音響信号 3 声とともに第 3 代表旗を掲揚することによって信号が発せられる。アンパイアは、口頭か書面のいずれかでこのことを伝達することができる。</p>
<p>5. ボートとセイル</p> <p>5.1</p> <p>(a) 本大会は、日産マリーナ東海の J/24 クラスのボートで帆走される。</p> <p>(b) 使用すべきセイルは RC により割り当てられる。</p> <p>(c) 競技者は、シリーズ中に、スポンサーの要請を満足するためにセイルを交換することを要請されることがある。このことは救済の要求の対象とはならない。これは RRS62 の変更である。</p> <p>5.2 用いなければならないセイルの組み合わせは、注意信号の 1 分以上前に、RC ボートのパウから信号が発せられる。信号は次のことを意味するものとする (連続音響信号を伴う)。</p>

信号	用いなければならないセイルの組み合わせ
オレンジ旗	そのフライトのすべてのマッチ競技者はスピネーカーおよびスピンプールを使用してはならない。
5.3	その他の制限または指示は、艇に対してアンパイアから口頭でなされることがある。第 3 代表旗は必要としない。
5.4	削除
5.5	削除
6 艇の識別と割り当て	
6.1	艇は、各艇のハル・カラーにより識別される。色は、白、黄、赤、紺の 4 色である。
6.2	メインセイルには、OA により提供された文字を表示することを求められることがある。
6.3	艇は原則として日毎、および各ステージごとに抽選によって割り当てられる。再抽選は RC の決定に従って行われる。
6.4	艇はペアリング・リストに従って交換される。
7 クルー・メンバー、人数と体重	
7.1	1 チームの乗艇できるクルーの合計体重は 340kg 以下でなければならない。体重測定は少なくともショーツ(パンツ)とシャツを着用した状態で行う。この計量は OA によって指定された計量期間に行い、計測は機器の誤差を考慮して各自の表示体重より 0.2kg を差し引いた数値を公式体重とする。
7.2	1 チームの登録乗員人数は最大 6 名である。7.1 の制限体重内であればクルーは交代してもかまわない。ただし、第 2 レース以降のクルーの人数は第 1 レースに乗艇した人数より多くても少なくてもいけない。また、クルーを交代する際は事前に RC の了解を得なければならない。交代に要する時間はスタート延期の要求の対象とはならない。
7.3	乗員の内少なくとも 1 名は旧 5 級小型船舶操縦士または新 2 級小型船舶操縦士 (6 トン限定) 以上の免許を所持しており、海上に出るときは常時携帯していなければならない
8 イベント・フォーマットとスタートのスケジュール	
8.1	イベントフォーマットは SI のアペンディックス B に記される。フライトで帆走するマッチは RC ポートよりスタートする順に示される。
8.2	削除
8.3	レース日は 10 月 11 日から 10 月 12 日まで予定されている。
8.4	レース最終日 10 月 12 日においては、15:15 より遅い時刻に注意信号が発令されることはない。
8.5	それぞれの日にレースをするマッチの数は、RC の決定による。
8.6	<p>(a) RC は、現在の状況または予定されている残りの時間ではマッチの残りを続けようとするのが実行不可能であると判断した場合、ステージまたは大会を終了することができる。初期のステージは、その後のステージを行うために終了することができる。</p> <p>(b) RRS C10.3(b)に以下を追加する。「1 回のラウンドロビンが完了する前に終了した場合、または複数のラウンドロビンが最初のラウンドロビンの最中に終了した場合、最高得点はそれぞれの競技者と帆走したマッチにつき平均の得点を得たとして決定されるものとする。ただし、1 名またはそれ以上の競技者が予定されたマッチの 1/3 未満しか完了しない場合を除く。その場合、全体のラウンドロビンが無視されなければならない。必要な場合には大会が無効と宣言される。」</p>
8.7	最初の注意信号発令予定時刻は、10 月 11 日は 13:10、10 月 12 日は 08:40 である。
8.8	引き続き行われるそれぞれのフライトは、実行可能な限り速やかに前のフライトに引き続いて開始される。これは、前のフライトの最終マッチがフィニッシュすることを必ずしも要しない。
8.9	あるマッチが予定された時刻にスタートできない場合、次のマッチの信号とスタートは元の予定のままとし、スタートしないペアは

空白のスタートのままとする。スタート・シーケンスの旗は、空白のスタートに対しては掲揚されない。

8.10 ノックアウト・シリーズで、あるシリーズの勝者が決定された場合、引き続き行われるスタートは、空白のスタートをなくすために前に持ってくるものとする。競技者には、アンパイアより口頭でそのことを伝える。

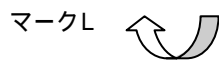
9 レース海面

レース海面は日産マリーナ東海の沖である。

10 コース

10.1

(a) コースの形状 (縮尺どおりではない)



(スタートフィニッシュ・ライン)
 ピンエンド・マーク RC ボート

(b) コース信号と帆走すべきコース

コース信号は予告信号と同時にまたはその前にRC ボートのパウに掲揚される。マークW とL は、スターボード (右) 回航しなければならない。

信号	コース
----	-----

信号なし	スタート - W - L - W - フィニッシュ
S 旗	スタート - W - フィニッシュ

(c) マークの説明

RC ボートは日産マリーナ東海の旗を掲げたモーター ボートである。なお JSAF 環境キャンペーン旗を同時に掲揚することができる。
 ピンエンド・マーク、マークW および L、置き換えマークの色と形状は最初の艇長会議時に説明される。

10.2 スタートフィニッシュライン

- (a) スタートフィニッシュ・ラインは、スタートフィニッシュ・マーク (ピンエンド・マーク) のコースサイドと、RC ボート上に設けられたボールのコースサイドとの間の直線である。
- (b) RC ボートには、ラインでつないだブイを取り付けることがある。艇は、常にこのブイとRC ボートとの間を通過してはならない。このブイは、RC ボートのグラウンド・テークルの一部である。

10.3 削除

10.4 削除

10.5 中止と短縮

- (a) RRS32 を削除して、以下の文と置き換える。「RC は、スタート信号後、何らかの理由のために、実施できる場合はそのマッチのアンパイアと協議後、マッチの中止またはコースの短縮をすることができる。」
- (b) スタート信号後、レースの中止が決定された場合、RC ボートから音響信号 3 声とともに N 旗を掲揚する。数字旗とともに N 旗が掲揚された場合、その数字旗で示されたマッチのみが中止されるものとする。(レース信号の変更)
- (c) スタート信号後にコースを短縮するときは、最初の上マーク付近にいるRC ボートから音響信号2 声とともに S 旗を掲揚する。この場合、各艇は SI 10.1(b) で S 旗が掲揚された場合と同じコースを帆走しなければならない。数字旗の上に S 旗が掲揚された場合、その数字旗で示されたマッチ以降、同じフライトのすべてのマッチに本項が適用されるものとする。(レース信号の

変更)
11 損傷と修理のための時間
11.1 フライトの注意信号の前、またはフィニッシュ後の2分以内、または新しい艇に乗り替わった後の5分以内のいずれか遅い方までに、艇は、艇体やセイルの破損または損傷あるいは乗員の負傷を知らせるピンク旗を掲げ、次のスタートを遅らせるように求めることができる。その艇は、できるだけ早くRCもしくはアンパイアに状況を報告し、RCボートの風下に近づけて進み、そこにとどまらなければならない。ただし、別の指示がある場合を除く。
11.2 修理に許される時間は、RCの裁量とする。
11.3 フライトの注意信号発令後は、破損のためにマッチを延期または中止しない。ただし、SI 11.1 に定められているとおりに破損信号が掲げられた場合を除く
11.4 RRS 62.1(b)が適用されている場合を除き、修理ができないことまたは注意信号後の破損は、救済の理由とはならない。この項は RRS 62 を変更している。
12 削除
13 風上マークの位置の変更
13.1 コースの変更は、2度目のマークWを置き換えマークWに変更することにより行う。マークの形状と色は最初の艇長会議時に説明される。
13.2 引き続き行う変更は、元のマークへ戻す。
13.3 コース変更の信号 (RRS33 とレース信号の変更)
(a) C旗とともに掲揚される赤色または緑色旗は、「新たなマークWを、色付の旗で示される方向に置き換えた」ことを意味する。スタートラインから見て、赤色の旗は最初のマークよりもポート側に、緑色の旗はスターボード側に新たなマークが設けられたことを示す。
(b) スタート後のコース変更を特定のマッチにのみ適用する場合、当該マッチの数字旗を同時に掲揚することにより指示するものとする。
13.4 信号船
(a) 最初のレグでコースの変更を行う場合、信号は適用されるそれぞれのマッチの準備信号とともにRCポート(スタート信号船)上で掲揚される。準備信号は、一連の反復音響信号を伴うものとする。この信号はスタート信号とともに降下する。
(b) 最初のレグの後にコース変更の信号を発する場合、レース艇が最初に回航するマークLに近づいたときに、本部船(スタート信号船)もしくはマークL付近にいるスタート信号船とは別のRCポートのいずれかで掲揚するものとする
14 タイム・リミット
相手艇がコースを完了しフィニッシュした後、5分以内にフィニッシュしない艇はDNFと記録される。この項は RRS 35 および A5 を変更している。
15 削除
16 メディア、映像および音響
(a) OA はいつでも、メディアの人員と機材(またはダミー)を積み込むことを求めることができ、また競技者にインタビューに答えることを求めることができる。
(b) レースをしない人員と機材の位置はRCによって決定され、口頭によってアドバイスされることがある。
(c) OA は、大会期間中に採集された肖像を含む映像と音響を無料で使用する権利を有するものとする。
(d) クルーメンバー(スキッパーを含む)は、オーディオマイクロフォンを身に着けることを求められることがある。
17 賞
【女子全日本部門】
1位のチームにはJYMA賞が贈られる。
【Q's マッチ部門】
1位のチームにはJYMA賞が贈られる。
【総合】

女子全日本部門とQ'sマッチ部門の混成で行われるラウンド・ロビンにおいて、総合1位のスキッパーには特別賞が贈られる。

女子全日本部門の優勝スキッパーには、08年10月28日から韓国釜山で開催されるプサン・ウィメンズ・ワールド・マッチレース(G1)への出場権が与えられる予定である。

実行委員会は、競技者の不品行、あるいは公式行事への出席を含むリーズナブルな要求に応じることの拒否に対して、賞を減じることができる。

18 行動基準とダメージの取り扱い基準

18.1 行動基準

- (a) 競技者は、公式行事への出席や大会スポンサーへの協力、およびRCへの手伝いを含む、競技役員からのリーズナブルな要求に従わなければならない、また大会の名誉を傷つけるような行動をしてはならない。
- (b) 競技者は、艇と装備を通常の注意とシーマンシップによって取り扱い、SIアペンディックスCとDに従わなければならない。
- (c) OAは海上においては救命胴衣の着用を強く推奨するが、RCが特に命じるとき以外、救命胴衣を着用するか否かの最終判断は各艇によるものとする。
- (d) 本項に対する違反のペナルティは、PCの裁量であり、それには大会へのこれ以上の参加からの排除、賞の回収、デポジットの保留を含めることができる。

18.2 ダメージの取り扱い基準

18.2.1 以下のアイテムの紛失は理由のいかに関わらず当該艇の責任とし、その損失はダメージ・デポジットより差し引かれる。

- (a) ウンチハンドル 13,000円/1本
- (b) 抗議旗(Y旗) 5,000円/1本
- (c) その他の旗(識別旗、B旗、損傷旗) 各 3,000円/1枚

18.2.2 使用されるレース艇が加入している艇体保険の免責額は1艇1事故につき100,000円である。免責額内のダメージ補修費用は、当事者負担とすることができる。

18.2.3 帆走指示書アペンディックスC(ハンドリング・オブ・ボーツ)に違反した結果生じたダメージは艇体保険適用の対象とはならない。全額当事者の負担とする。

18.2.4 他艇との接触によって生じた、艇体、セイル、艀装その他備品のダメージは、その保険免責額内の修理費用を当事者間で負担するものとする。この金額はダメージ・デポジットから優先して差し引かれるが、不足額があれば後日OAが請求する。その金額は事故の性質により免責額の100,000円を超えることもある。その負担割合は原則として当事者間の協議によるものとするが、当事者から要請があった場合、OAはPCのアドバイスを受けて、以下の割合によって分担することを勧告する。

- (a) 権利艇 非権利艇が特定できる場合 権利艇 2 : 非権利艇 8
- (b) 権利艇 非権利艇が特定できない場合 当事者間で均等割りとする

18.2.5 前項に該当するダメージが生じた場合、各スキッパーは帰着後30分以内にコンディション・レポートの他に別書式のダメージ・レポートをRCに提出し、口頭でその概要を報告する義務がある。

18.2.6 大会の進行を妨げるような重大なダメージを引き起こしたスキッパーに対して、PCと協議の上、RCはダメージの修理が完了するまでの間そのスキッパーの成績を不戦敗とする場合がある。

19 否認

大会に参加するすべての者は、自己のリスクで参加している。OA、その提携者および任命を受けた者は、原因が何であれ、損害、損傷、負傷または被った不都合に対する責任を否認する。

発行日 2008年10月1日

帆走指示書 Version 1.0



SI APPENDIX A - LIST OF ELIGIBLE SKIPPERS

SI アペンディックス A 参加資格のあるスキッパー

Name of skipper スキッパー氏名	Name of Team チーム名称	JYMA Ranking 1 Sep., 2008
【女子全日本部門】		
佐藤麻衣子 Maiko Sato		28
藤井 麗 Urara Fujii		-
【クィーンズ・マッチ部門】		
星野ひろみ Hiromi Hoshino		19
庄崎賀絵 Yoshie Shozaki		25
服部桂子 Keiko Hattori		-

SI APPENDIX B - EVENT FORMAT and SCHEDULE OF EVENT

SI アペンディックス B イベント・フォーマット & 大会スケジュール イベント・フォーマット

1. 正式なイベント・フォーマットおよびペアリング・リストは最初の艇長会議時に発表される。
2. 複数のラウンド・ロビンが予定されている。
3. ラウンド・ロビンは女子全日本部門とクィーンズ・マッチ部門の参加者を混合して行う。
4. 各部門の成績は、それぞれ部門ごとの参加者の対戦ポイントを合計して算出するものとする。

大会スケジュール

10月11日(土)	
08:00	レース本部オープン
08:10 - 12:00	登録受付、体重計測
09:00 - 09:30	マッチレース講習 (講師 / 戸谷 壽男)
09:30 - 11:30	マッチレース海上練習 (主にスターティング・マニユアー)
11:30 - 12:00	艇の最終点検
12:00 - 12:30	艇長会議 / アンパイア・ブリーフィング
12:40	レース艇ドックアウト
13:10	最初の注意信号発令
17:00 - 18:00	アンパイア・ブリーフィング
18:30 - 20:00	レセプション
10月12日(日)	
07:00	レース本部オープン
07:00 - 07:20	交代クルーの受付と体重計測 (10月11日09:00までに事前申告のあったチームに限る)
07:30 - 08:00	艇長会議
08:10	レース艇ドックアウト
08:40	最初のマッチの注意信号発令
16:30 - 17:30	アンパイア・ブリーフィング / 表彰式
17:30	レース本部クローズ

SI APPENDIX C - HANDLING BOATS

SI アペンディックス C ハンドリング・ボーツ (艇の取り扱い)

<p>1 全般 艇をイコライズ (対等にする) するための適切な過程が踏まれている限り、艇のヴァリエーション (違い) は救済の理由とはならない。この項は RRS 62 を変更している。</p>
<p>2 禁止されるアイテム (品目) と行為</p>
<p>2.1 緊急時または損傷や負傷を予防するため、あるいはアンパイアが指示した場合を除き、以下の項目は禁止される。</p>
<p>2.1.1 提供された装備に何かを付け加えたり、省略したり、あるいは変更を施すこと。</p>
<p>2.1.2 当初意図された目的、または特に認められた目的以外に装備を使用すること。</p>
<p>2.1.3 RC の許可を得ずに装備を交換すること。</p>
<p>2.1.4 損傷を引き起こす恐れがあることが明らかであるようなセイリング方法をとること。</p>
<p>2.1.5 それ自体を使用している場合を除き、通常の保管位置から装備を移動すること。</p>
<p>2.1.6 前もって許可を受けずに艇に乗り込むこと。</p>
<p>2.1.7 必要とされるダメージ・デポジットなしで、あるいは RC の許可なしで、またレース日においては「AP」旗が陸上で掲揚されている間に、停係泊場所から艇を受け取ること。</p>
<p>2.1.8 艇を上架したり、喫水線以下を清掃すること。</p>
<p>2.1.9 レース中にパウハッチを使用 (開閉) すること。レース中はパウハッチを閉じ、ロックしておかなければならない。</p>
<p>2.1.10 スピネーカーの帆布にラインを取り付けること。</p>
<p>2.1.11 たとえテルテールを取り付けるためであっても、セイルに穴を開けること。</p>
<p>2.1.12 無線交信機 (携帯電話を含む) を使用すること。ただし、損傷の報告などの緊急時、RC の要請に対して返信する場合を除く。</p>
<p>2.1.13 バックステイ以外のスタンディング・リギンのテンションを調整すること。</p>
<p>2.1.14 メインシート、バックステイ、またはヴァングの調整にウインチを用いること。</p>
<p>2.1.15 レース中、エンジンをブラケットに取り付けたままにすること。</p>
<p>2.1.16 メイン・トラベラーを使用すること。(メイン・トラベラーは OA によってセンターに固定される。動かしてはならない。)</p>
<p>2.1.17 ジブセイルのシートを、風下側のウインチを介さず、リードブロックから直接交差してシーティングすること。</p>
<p>2.1.18 ウインチにシートを取る前に、ヘッドセイル・カーやターニング・ブロックを通す事を省くこと。</p>
<p>2.1.19 コンパス、タイマー、時計以外の電子機器を使用すること。</p>
<p>2.1.20 削除</p>
<p>2.1.21 ハル及びデッキにパーマネント・インクで直接マーキングすること。</p>
<p>2.1.22 スタート信号後、クローズホールドで数秒以上帆走しているとき、メインブームの位置をメイン・トラベラーの最終ブロックから出ているメインシート、およびヴァング以外の手段でコントロールすること。</p>

Co-operated by; Aichi-ken Sailing Federation

2.1.23	タッキング、ジャイビングまたはバウダウン時の艇の動きを促進させるために、シュラウド (すべてのインナー・シュラウドも含む) のロワー・ボトルスクリュウ (タンバックル) より上部をつかむこと。
2.1.24	メインシートのテークル数を変更してセットすること。
2.1.25	ジブシートを 1 本しか使わず、エンドレスでシーティングすること。
2.2	SI C2.1.22 または 2.1.23 の違反は、艇による抗議の対象とはならない。RRS C8.2 に従ってアンパイアによる処置に属する。(この項は RRS C6.2 と C8.2 を変更している。)
3	容認されるアイテム (品目) と行為 以下の項目は許される。
3.1	以下の装備を積み込むこと。 (a) 基本的な手動工具 (b) 粘着テープ (c) ライン (直径 4mm 以下の弾性のあるものまたはそれ以外のもの) (d) マーキング・ペン (e) テルテール用の素材 (f) 時計、タイマー、ハンドヘルド・コンパス (g) シャックル、クレビス・ピン、割ピン、リング・ピン (h) ベルクロー・テープ (i) ボースンチェア (j) セイル・リペア・キット (k) 予備の 8 インチ・ウインチハンドル (最大 2 本まで) (l) 予備の信号旗 (m) 船底に引っかかった藻やごみを取るための道具。この道具は 4m 以内のロッド、あるいはそのロッドに 4m 以内のロープを組み合わせたものに限る。この道具はその目的以外に使用してはならない。
3.2	以下のために 3.1 の装備を用いること。 (a) ハル、セイル、ライン、シート等の汚れ、破損の予防。 (b) テルテールの取り付け。 (c) セイルの損傷または艇外への落下の防止。 (d) セッティングをコントロールするためのマーキング。 (e) 小補修の実施。
3.3	スピネーカー・シート・キャッチャーの固定。ただし、艇長より 100mm 以上伸ばさないこと。また、除去後の修理を必要としないこと。
3.4	いかなる方法でも変形しないこと、そしていかなる荷重によってもダメージを引き起こさないことを条件に、ハイキングを助けるために以下のアイテムを用いることは許される。 (a) ワーキングシート (b) スタンディング・リギン (SI で明確に禁止されていることを除く) (c) 固定された装備
4	義務であるアイテム (品目) と行為 以下の項目は義務である。
4.1	たとえダメージがなく、すでにロスが記録されている場合でも、毎レース日、艇を離れる前にその日に乗艇したすべての艇に関するコンディション・レポートを RC に提出しなければならない。レポートにはダメージの原因であったらう点や今後のマッチに及ぼすだろう影響も含めなければならない。他艇との接触によるダメージがあった場合は、コンディション・レポートの他に、SI 18.2 項の要請によるダメージ・レポートを提出しなければならない。
4.2	レース初日の終わりに、 (a) ダメージがなければ、セイルをバッグに入れキャビン内に収納すること。



(b) その日最初に艇に乗り込んだときと同様にきれいに清掃して艇を離れること。 (c) バックスティのテンションを緩めること。 (d) チェックリスト(アベンディックスD)に従って備品をチェックすること。 (e) Y旗、識別旗、抗議旗、損傷旗はキャビン内に収納すること。
4.3 レース最終日には指定された艇を清掃し(デッキ、キャビン、ハルともに)、すべてのゴミ、テープ、マークを除去すること。その他、艇の後片付けについてRCの指示に従うこと。また、アベンディックスDに従って備品をチェックすること。
4.4 いかなるやり方でも艇の装備の変更要求は書面で行い、文面はYES/NOで簡潔に回答できる文章でなければならない。
4.5 停泊・係留場所とレース海面の往復時には、速度制限や航海標識を含む法令に従うこと。
4.6 レース中、エンジンはブラケットから取り外し、キャビン内に収納すること。この際、エンジンの頭部をバウ方向に置いて寝かせ、マストステップにロープで固定すること。
4.7 本項の4.2と4.3の違反は損傷とみなされ、その日の最終搭乗スキッパーの責に帰す。

SI APPENDIX D – Check List of Race Boat

SI アベンディックスD レース艇のチェックリスト

レース・ボートのチェック・リストは 艇の引渡し時に配布される。